

派遣先所属 宮城県仙台土木事務所
氏 名 森脇 純 (もりわき じゅん)
派遣期間 平成29年4月1日～平成31年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

宮城県仙台土木事務所に派遣させていただき、今年度で2年目になります。派遣先の仙台土木事務所では昨年度と同様、一級河川名取川水系南貞山運河の復旧・復興に関する業務を行っています。南貞山運河は貴重な土木遺産として位置付けられている運河郡の一つであり、築造400年を経た歴史ある公共施設です。しかし、震災時の津波により堤防や護岸が大きく被災し、引き波で集められたがれきで埋没しました。その南貞山運河の機能を復旧するための業務です。震災から7年8ヶ月が過ぎましたが、南貞山運河の復旧・復興事業は、宮城県が震災復興計画において復興の目標年次として定めている平成32年度までの完成を目指しています。

担当業務としては、南貞山運河を復旧するとともに、その治水機能を増強し、自然災害に対して粘り強く強靱な施設にするための工事の監督員を、他県の派遣職員と一緒に分担しています。

具体的には河川施設として明治三陸地震時の津波の高さに対応し、最大クラスの津波来襲に対しても甚大な被災を回避できる構造に整備します。

これについては復旧工事を発注するための設計、積算を行うとともに、工事に関して問題が生じた際には監督員として施工業者に指示を出します。

南貞山運河の復旧復興に併せて、南貞山運河に架かる市道橋の架替工事、隣接する仙台空港の進入灯移設工事等の他関係機関の工事が残っています。それらの工事に付随する南貞山運河の護岸部が残工事となるため、平成32年度の完成に遅れることのないように各関係機関や施工業者と綿密に調整を行っています。

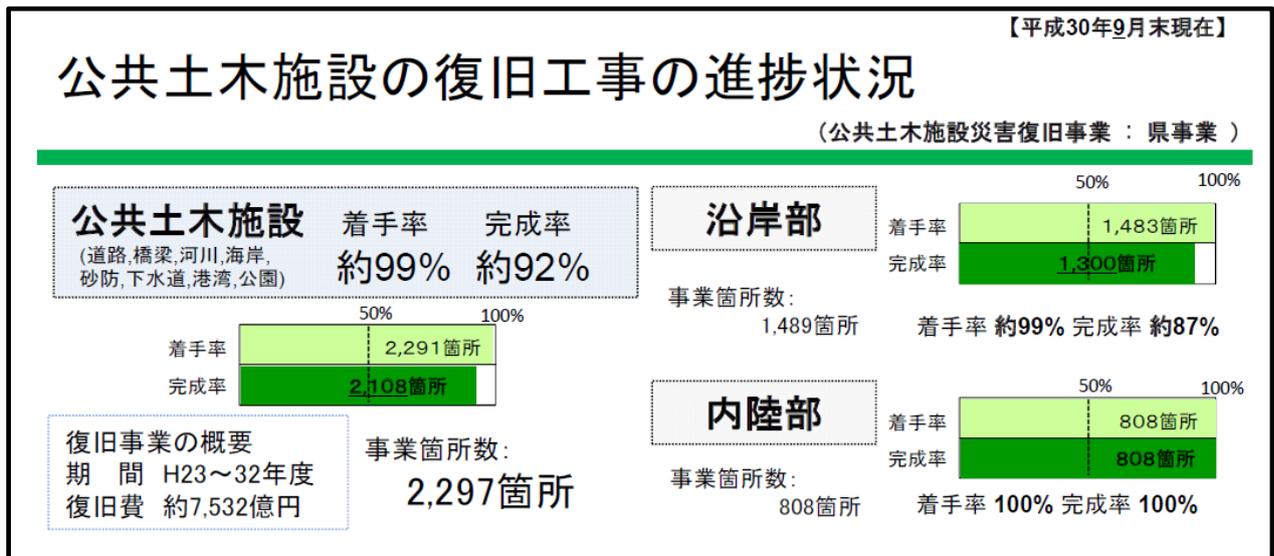
仙台土木事務所では他の都道府県からの応援職員も多くの方が業務に従事しています。私は2年目ということもあり、今年度から派遣された方々に災害復旧事業の現状や今後必要とされる業務内容等を率先してお伝えできるよう努めています。また、仙台土木事務所は約170人の職員が所属しており、毎日、活気に溢れています。私と同年代の職員も多いため宮城県職員の方も交えてコミュニケーションを取りながらやっています。



2 宮城県の復旧・復興の状況

平成30年9月末時点の公共土木施設における災害復旧事業の進捗率は下表のとおりです。

被災箇所に対する全体の完成率は92%となっており、内陸部の復旧事業はすべて完成しています。沿岸部も87%まで完成しており、平成32年度までの復旧復興事業完成に向けて宮城県職員、派遣職員が一丸となって業務に取り組んでいます。



3 宮城県へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となって、埼玉県では従事する機会の少ない大規模な河川工事を担当して、日々、多くのことを勉強させていただいています。派遣の2年目になり、災害復旧事業の考え方や必要とされる知識も身に付いてきたように感じています。未曾有の大震災を経験した宮城県の復旧・復興に少しでも貢献できるように全力で業務に従事しています。そして、埼玉県に戻った際には、宮城県で学んだ貴重な経験や知識を還元できるよう努めます。

また、現在では、日本各地で地震・豪雨による災害が多発しており、首都直下型地震や南海トラフ沖地震などの大震災の発生も危惧されています。そのため、東日本大震災を教訓にして、災害から住民の安心安全な生活を未然に守れるように、被災により苦しむ人の役に立つ県職員になれるように、今後も努力していきたいと改めて感じました。



平成23年6月20日 南貞山運河



平成29年8月18日 南貞山運河